

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4470300460		
法人名	医療法人 英然会		
事業所名	グループホーム・み里		
所在地	大分県 中津市 中央町1丁目8番地36号		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町村受理日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年11月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・田園に囲まれた静かな環境の中で、その人らしい暮らしが安心して出来、共に生き活きと生活出来る環境づくりを行っています。</li> <li>・管理者、パート職員、その他全職員が協力して行きたい時に外出できるよう支援している。</li> <li>・入居者の状態を隣接の診療所に報告しておき、特変があればすぐに対応できるよう連携を図っている。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の知識や特技が事業所で行われているデイサービスや行事、楽しみな手作りの食事に活かされている。</li> <li>・利用者の行動の制限をすることなく、安全に配慮しながら見守りや行動支援に努めている。</li> <li>・職員ミーティングでは、個々の利用者の課題が話し合わせ、詳細に記録されている。それらの課題は介護計画に活かされている。</li> </ul>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホーム・み里の理念を作成している。年度始めに年間目標を作成し、職員全員が共有できるように会議室に貼りだしている。	事業所理念の他に、「心に寄り添う介護」を目標に掲げ、意思疎通の困難な利用者とのコミュニケーションや日々の利用者支援の中で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	年に一回地域の自治会・老人会・地域の役員の方と一緒に花見会を行っている。8月に地域交流の夏祭りを行いたくさんの方に参加して頂いている。	夏祭りは、4年前から継続して開かれ、町内会や子供会に案内をし、多くの地域住民の参加が得られている。また、使用するテントは、地域の方が手続きをして小学校から借りてきてくれる等の協力も得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	人材育成の貢献として地域中学生の職場体験実習、初任者研修、市民後見人の実習などを積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、地域と事業所が相互の関係を築いていけるような話し合いが行われている。また、地域の方、入居者家族から積極的な意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、2か月に1度定期的に開かれている。委員は、地域の役職4名、中津市職員、包括支援センター職員の他に、「地域密着型介護事業に知見を有する者」として、市内のグループホーム職員の参加がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所に出向き手続き上の問題を相談し、運営推進会議では意見や情報を頂いている。	市職員、地域包括職員は、運営推進会議に毎回参加している。会議や訪問を受けた際には、事業所運営や支援に対しての質問や問いかけを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が意識を持ちながら身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、現在2名の入居者がベッドからの転落の危険があるため、ベッド柵を取り付けている。両名の家族には了承のサインを頂いている。	外出傾向のある利用者が、1階と2階のユニット間の移動をする場合にも、制止することなく安全面の配慮をしながら、利用者の納得のいく方法での見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議室に高齢者虐待についての紙を張り出し職員目に触れるようにしている。また、職員間で虐待防止について注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や何人かの職員は成年後見人制度についての研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に入居者家族に不安な点、疑問点を尋ね十分な説明を行っている。また、グループホームについて利用料金、重度化や看とりなど医療体制についても詳しく説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置しているが意見が出ない為面会時に尋ねている。英然会苦情接遇委員会より年に1回アンケートを取り、入居者家族に意見を聞いている。また、反映できるように取り組み、内容を明記している。	毎日面会に来る家族や、遠方に住む家族も3か月に1度程度の面会があり、面会時に意見や希望を聞くように努めている。年1度開かれる家族会は、クリスマス会を兼ねて開かれ、7割の家族の参加が得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各部署の責任者が月1回の運営会議で意見を出し合っている。	月に1度、職員ミーティングが開かれ、事業所運営や利用者支援について話し合われている。職員の技術や特技、アイデアが、日常の事業所活動に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が向上心を持って働けるように職能機能評価を行っている。労働基準法に沿って職員の労働条件を整え、就業規則があり守られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	積極的に介護に関する研修会に参加できるように取り組んでいる。また、研修で学んだことをミーティング時に共有している。法人内の各研修にも積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	中津市のグループホームで連絡会を立ち上げ3ヶ月に一度連絡会を行い、一人ずつ職員が順番に研修見学に行き交流している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人・家族が入居に対して不安のある方は体験入居(5日～7日)をして頂く事もでき、信頼関係を築き契約を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者、ケアマネージャーがこれまでの経緯についてゆっくり聞いている。また、家族の状況を把握することにより信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族の思い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案、信頼関係を築きながら必要なサービスに繋がられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有し、入居者から昔の話の聞いたり料理の味付けを教わったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に入居者の様子、日々の暮らしの出来事や気付きを報告し、情報の共有に努めている。家族に日々の言動について状況をお話しし、相談しながら本人にも納得して頂ける支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の方の友人、知人が面会に来られた時は、部屋でゆっくり一緒に過ごせる環境作りをしている。また、病棟やデイケアに知人がいる方には、デイケアにホットパックを一緒に取りに行く途中でおしゃべりをしたり、一緒にラジオ体操したりしている。	入居期間の長い意思疎通の困難な利用者が、在籍の長い馴染みの職員の声掛けやスキップに支えられ、穏やかな生活の継続が出来ている。大正琴や音楽療法などのボランティア訪問も継続的に行われ、馴染みの関係が構築されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合った入居者同士が自由に過ごせるように居場所や雰囲気作りを努めている。また、コミュニケーションをとる事が難しい入居者に対しては職員が入り一人一人が声かけをし、利用者と歌を一緒に歌うなどして、利用者が孤立しないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	隣接の病棟へ転院された方がいるが様子を伺いに訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の発した言葉や表情・態度、言葉などから思いを読み取り、把握に努めている。介護計画の立案時には再度本人・家族の希望、意向を確認している。	センター方式を採用し、丁寧に記載されている。日常生活支援の中で得られた担当職員の気づきは、計画作成者に伝えられ、アセスメントに加筆されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、家族にこれまでの生活歴、個性や価値観、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、職員全員が本人の全体像を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カルテや介護計画、申し送りノートなどを各自がチェックし現状を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映できるように心がけている。ミーティングやカンファレンスにて職員全員で意見交換を行い、共有を図っている。	職員ミーティングの際に、職員間で個々の利用者の課題について話し合われ、それらは詳細に記録され、個別介護計画に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を基に毎月の介護計画の評価、3ヶ月毎の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の状況に応じ通院など必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議を通じ、地域の方にグループホームを知って頂き、協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者、家族の希望に応じ歯科・整形外科など必要な医療機関に受診している。家族の付き添いが出来ない時は職員が付き添っている。必要時は往診を依頼している。また、皮膚科の医師が毎週火曜日に往診してくれている。	利用者、家族の希望の掛かりつけ医となっている。必要時には、母体の医師の往診を受けている。毎週往診の皮膚科医師は、内科疾患の対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員を配置しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時は訪問看護師・法人内看護師の支援体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の生活状況を職員が共有できるように面会を行っている。早期の退院が出来るように家族の意向を含め、入院先の主治医との相談、関係者との連携を深め調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を作成し、入居時・状態が悪くなった時に意向・同意を得ています。	事業所で対応可能な処置やケアを伝え、利用者の状況に応じて、家族と話し合いを行いながら、重度化や終末期の支援を行っている。今年度、5名のターミナルケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	酸素使用方法、応急処置は対応できるように技術習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防署の指導で非常防災災害訓練を行っている。また、運営推進会議を通し災害時の協力を依頼している。	消防署、運営推進会議委員数名参加の下、火災対応の避難訓練を行っている。動けない利用者の避難の実践は行われていないが、職員が利用者役になりベッドパットでの搬送訓練を行っている。備蓄は、母体法人厨房に準備されている。	訓練は、日中対応のみで、夜間対応の訓練が行われていない。夜間は1名の夜勤者で2階建て2ユニットを対応しているため、緊急時の通報、利用者対応含め、夜間対応での訓練の実践が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	英然会の接遇委員会で年2回接遇セミナーを行っている。言葉掛け、対応について学習をすると共に月1回のミーティング時、日々の関わり方について確認し統一している。	日常の挨拶や言葉掛け、対応の配慮に努めている。事業所広報誌や利用者の長寿記念の写真掲載や広報利用には、各自承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で各自の希望を聞き、自己決定できるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の希望やその時の気分にあわせ一人一人のペースに合わせるよう心がけている。行事、レクレーションにも無理な参加は勧めず自己決定を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	娘さんの美容室で散髪したり法人契約している理容を使われている方もいる。その他の方は、2か月に1回理容師に来てもらって散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日の調理日のメニューは入居者が食べやすいメニューを考えている。入居者のその日の状態を把握しながら調理や下準備、味付けなどを手伝って頂いている。	食事は3食とも、母体の厨房で作られている。利用者の嚥下や咀嚼状況に合わせ、事業所で刻みやミキサー食に加工されている。毎週日曜日の昼食は、事業所厨房で、季節感や旬の食材を楽しめる手作りの食事作りが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	10時・15時、入浴後の水分補給以外にも随時お茶や好きな飲み物を勧めている。嚥下状態の悪い人にはペースト・きざみにし、水分はむせないようにトロミを使用している。また、高カロリーのゼリーを使用するなどの工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人一人に合った口腔ケアを行っている。うがいが出来ない方にはガーゼを使用し、口腔ケアを行い、飲み込んでしまう方には、さまし湯でうがいをして頂いている。義歯使用の方には定期的に夜間帯、義歯洗浄剤を使用している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンや排泄の有無を把握し、タイミングを図りながら声かけ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	18名の利用者の内、介護度4、5の利用者が7割を占めるが、16名の利用者がトイレでの排泄を行っている。利用者の動きやサインを見逃さず、声掛け・誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日ラジオ体操を行い、レクでは風船バレー・手遊び歌なども取り入れ、適度な運動や散歩、十分な水分摂取などで便秘予防に努めている。排便困難な方には緩下剤で内服コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	身体機能の状況に合わせて介助や見守りを行い、時間にゆとりを持たせ入浴を楽しめるよう支援している。拒否のある方にはタイミングを計りながら声かけし、無理に入浴を勧めないようにしている。	週に3日の入浴を基本としている。利用者の身体状況により、職員二人での入浴支援、利用者の意志を尊重し、外からの見守りでの入浴、拒否者には無理強いすることなく、清拭や足浴での保清に努めるなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の睡眠パターンを把握し、夜間2時間毎に巡視を行っている。夜間不眠の方にはお茶を出しコミュニケーションを図り、安心して眠れるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋をカルテにつづり薬品名、作用などを職員が確認できるようにしている。各自の薬を管理し毎食後に服薬確認を行っている。病状の変化など必要に応じ受診を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の力を発揮してもらえるようにその人その人に合った仕事をお願いし感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外に出たい方は、職員と一緒に庭の散歩、花の水やりを行ったり、職員の用事の際に一緒に出かけたりしている。	外出は、主に、利用者一人に職員一人が付き添う個別外出が行われている。屋外に出ることが少ない利用者には、事業所から見える景色や陽ざし、職員が通勤時に感じる季節感や天候を伝える事で、外気や季節感を感じる機会にしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持している入居者はいないが本人の希望する品物を職員が代行している。買ってきた品物とレシートを本人・ご家族に見せるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があれば電話をかけている。ご家族と手紙のやりとりをしている入居者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関、各ユニットのフロアに季節に合った植物を飾り、入居者と一緒に作った季節ごとの創作作品をユニットフロアの壁に飾るなど季節感が出るように配慮を行っている。	利用者が集う共有空間は、十分なスペースがあり、開放的に作られている。利用者の介護度や身体状況に合わせた居場所が配慮されている。共有空間に、利用者が見守りを受けながら休めるよう共用のベッドが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各ユニットのフロアにソファを置き入居者同士が気軽に会話ができるようにしている。フロア内で横になれるように各ユニットにベッドを設置し、ソファで休まれたりベッドで休まれたり思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人家族と相談しながら使い慣れたもの、好みの物を持ち込まれ入居者の居心地の良さに配慮している。	利用者の身体状況に合わせて、ベッドを変更したり、転倒リスクのある利用者の手すりにスポンジのカバーを取り付けるなど、安全に配慮した居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者に合わせて少し低めのベッドを用いている人もいる。ベッド柵や浴室の手すりを使用し、安全で自立した生活が送れるよう配慮している。また、トイレには「便所」「トイレ」と大きく書き分かりやすくしている。		